

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 沼 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概

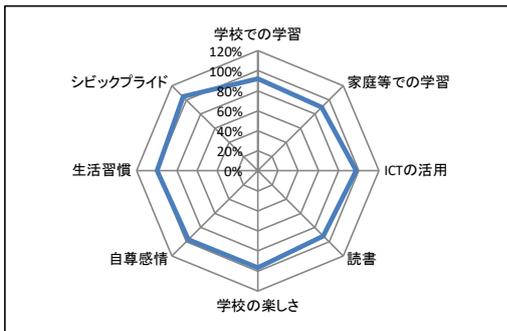
(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

本年度の結果	国語		数学		理科
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	IRTスコア
本市	7.4	53	6.7	45	492
全国	7.6	54	7.2	48	503

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	・思考力、判断力、表現力の問題では、読むことの正答率が高かった一方、書くことの正答率は低かった。 ・全体を通して、無解答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・手紙の下書きの修正を通して、読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整える問題。	
	努力が必要な問題	・ちらしの文章を通して、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題。	
数学	全体的な傾向や特徴など	・4領域共に平均を下回っているが、数と式、関数の領域は、正答率が比較的高かった。図形、データの活用の領域は、全体的に正答率が低かった。 ・全体を通して、無解答率が低かった。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	・知識・技能の分野で、素数の意味を問う問題と、必ず起こる事柄の確率を問う問題。	
	努力が必要な問題	・思考・判断・表現の分野で、図形において条件を変えた場合について、証明をどう改善するかの問題。	
理科	全体的な傾向や特徴など	・「粒子」を柱とする領域と「地球」を柱とする領域の問題の正答率が高かった。短答式、記述式の問題の正答率が高かった。 ・全体を通して、無解答率が低かった。	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	・元素を記号で表すことに関する知識、技能を問う問題。水道水と精製水に関する探究の過程において、振り返りを書く問題。	
	努力が必要な問題	・電気回路について、回路全体の抵抗が大きい装置や速く水が温まる装置を選択する問題。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

質問調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> ・「友達関係に満足している」「人の役に立つ人間になりたい」との問いに対して約90%の生徒が肯定的に回答している。 ・主体的・対話的で深い学びや個別最適な学びが、生徒の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、生徒が「良かった」「おもしろい」と思える授業にすることが必要である。 ・「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、個に応じた指導の場面やドリルアプリ、英語の学習等でも活用できるように啓発していく。 ・「地域や社会をよくしていくために何かしてみたい」との問いに対しては、肯定的な回答が多かった。学校主体で取り組む地域清掃に加え、地域ボランティア活動への参加が増えてきている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫させる活動を、今後も継続的に、意識して取り組んでいく必要がある。
・ICTの活用においては、授業での活用場面が前年度よりも増えている。今後も、個別最適な学習に活かせるような場面設定のために、職員研修を進めていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・毎日の家庭学習課題として、朝自習と連動したプリント学習に新たに取り組んだ。全員で同じ課題に取り組める利点があった一方、自分で計画を立てて学習する習慣づくりが今後の課題である。
・毎日の朝食を摂ること、学校の授業以外での読書習慣の確立については、家庭にも呼びかけを行う必要がある。